

2024年度 自己評価 評価項目（園の評価）・取組状況まとめ
 評価の基準 A：たいへんよい B：よい C：普通 D：反省を要する

取組状況		自己評価	学校関係者評価
1. カトリック幼稚園教育理念			
①聖トマ学園の教育理念を理解している	愛される体験をまず子どもたちに感じてもらえるよう日々の保育に勤めている。子どもたち一人ひとりが愛される体験ができるように、神様を身近に感じられるように心がけている。人は愛されてこそ愛することができる、愛される体験を沢山してほしいと願いながら子どもたちと日々接している。法人の日での司教様のお話、年度初めの職員研修で確認している。	A	A
②神に創造された一人ひとりの幼児を大切に保育を行っている	カトリック園であることを大切に、自分自身が神さまの愛を感じながら、神様から預けられている大切な子どもたちという認識で子どもの気持ちに寄り添うように心掛けている。ご家庭から大切なお子さんをお預かりしている、という気持ちも常に忘れずに、他者（我々職員）からも愛を日々感じられるよう心を込めて子どもたちと向き合い、子どもたち一人ひとりの個性を一人の人間として大切にできるよう心掛けている。	A	A
③「祈り」の大切さを幼児に教えている	毎日、災害や時事に触れながらお祈りするよう心掛けている。毎朝外へ出る前にマリア様の前で一緒に手を合わせる、朝の会で一緒に祈る等、子どもたちと共に積み重ねる中で大切さを伝えている。日々の祈り、七五三のお祝いの式やクリスマス会など子どもたちがわかりやすい言葉、また絵本を通して「祈り」を伝えている。日々の感謝、誰かのために、その都度共に祈ることを大切にしている。	A	A
2. 教育課程・指導計画			
①一人ひとりの幼児に目を配りながら、共に遊ぶように努めている	子どもたちの安全に配慮しながら、子どもたちの興味に寄り添いながら関わられるように努めている。危険のないように見守りつつ、一緒に楽しみたいと思っている。誰がどこにいるのか把握をしながら、一緒に遊び楽しむよう心掛けている。一人ひとり幼児が主体的に取り組めるような環境作りを大切に、遊びの中の学びを意識している。一人ひとりの言葉や表情をできるだけよく見聞きして遊ぶように努めている。	A	A
②幼児が基本的な生活習慣を習得するように努めている	毎日の繰り返しの大切さを感じながら援助している。手を出し過ぎないよう気を付けたり、声に出して一緒に練習したり（靴の履き方など）取り掛かり部分だけ手伝い出来た時に自分でできたことを褒めたりしている。子どもが身支度をしやすい環境の設定に配慮している。基本的な生活習慣が身に付くよう褒めたり励ましたりしながらその子にあった援助をしている。	B	B
③幼児の行動を見守り、褒める・叱る・注意するなどの適切な指導を行っている	必要以上に手や口を出さないよう心掛けている。些細なことでも褒めたりできるようになったことを一緒に喜んでいたり自信につなげていきたいと思っている。子どもの「できるようになりたい！」という気持ちに寄り添い少しの変化に気づき、ほめたり励ましたりしながら援助するよう努めている。褒めることを多く言葉にし、この時を逃さないよう意識している。	B	A
3. 保育者として			
①服装、礼儀、言葉遣い、身の振る舞い等、保育者としての品位を保つように努めている	子どもたち、保護者に見られているという自覚を持ち、日頃から心掛けている。保護者も子どもにとって大切な環境の一部なので常に見られているという意識を持ち努めている。	B	A
②園舎・園庭全体の安全、美化・正装、整理整頓、環境浄化などを心がけている	毎月の「点検の日」に園全体の見回り、確認を行っている。環境も大切な教育の要素という意識を持ち、日々の清掃を丁寧に、またこまめな消毒も心掛けている。危険なところはないか、怪我が起こらないように子どもの動きを考えたりしながら保育をしている。子どもたちが安全で使いやすく魅力的で美しい整理された環境で過ごすことができるように心がけている。	A	A
③歌、ダンス、リトミック、体操、絵、工作等の表現活動を通して、幼児の創造性を育むように努めている	子どもたちの発想を拾いながらそれを形にし作り上げていく楽しさを感じられるよう努めている。行事などがある期間も無理のない範囲で子どもたちが楽しめるよう皆配慮している。子どもたちが楽しめることを新しい感覚で取り入れていきたい。	B	A
④幼児の行動の特徴等について、教職員が情報を共有し、よりよい対応を検討・実践している	毎日の繰り返しの大切に、手を出し過ぎないよう気を付けたり声に出して一緒に練習したり（靴の履き方など）取り掛かり部分だけ手伝い出来た時に自分でできたことを褒めたりしている。身の回りの身支度、習慣を時折見直せるよう声をかけながら日々を過ごしている。子どもが身支度をしやすい環境の設定に配慮するとともに基本的な生活習慣が身に付くよう褒めたり励ましたりしながらその子にあった援助をしている。	A	A
4. 保護者との関わり			
①保護者との信頼関係ができています	保護者との信頼関係を築けるよう、子どもの様子を具体的に伝えたり、家庭での姿を聞き、共に成長の援助ができるように会話の時間を大切にしている。保護者の様子にも気を配り話を聞くようにしている。笑顔での挨拶や今日頑張ったことを伝えるなど、良い関係でいられるよう努めている。子どもの様子、成長した姿を保護者の方にこまめに伝えていきたいと思っている。	B	A
②幼児の問題点を率直に保護者に伝え、適切な対応をしている	気になることがあったときは、家での様子なども聞くようにしている。園児の困り感、発達で心配な点等を保護者と共有し、共に模索できるよう心掛けてい園児の成長の様子を正しく保護者へお伝えできるように、教師間の情報の共有を徹底している。	B	A
③保護者との間に問題が生じた時には、上司に相談している	自分で判断せず必ず報告し、園全体で考えるようにしている。報告連絡相談を大切にしている。	A	A
5. 組織運営			
①幼児にけが・病気等の事故が生じた時、園長（副園長）に報告している	該当事項が生じた場、情報を正確に早急に報告するようにつとめている。未然に防げるような事故は保育者の責任であり、なぜどのような状況で起こってしまったかの把握ができるよう、予測されることから目を離さない。	A	A
②職務分掌における自分の役割・分担を心得て行動している	組織の中の自分の役割を意識して仕事をしている。クラスの運営が日々順調に行われるよう補助の動きを考えながら保育にあたるよう努力している。それぞれが自分に与えられた職務に一生懸命取り組んでいる。臨機応変に適切なサポートができるように努めている。	B	A